

岩手山の火山活動解説資料（令和6年7月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

微小な火山性地震が増加している中で、8月2日から5日（期間外）にかけて振幅の小さな火山性微動が観測されました。また、山頂付近では、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。今後の火山活動の推移に留意が必要です。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～4、図5-①）

柏台監視カメラによる観測では、黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

黒倉山監視カメラによる観測では、大地獄谷で弱い噴気が認められました。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。大地獄谷及び黒倉山の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

4日に岩手県と合同で実施した現地調査では、前回（2023年7月13日）と比較して大地獄谷の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図5-②～⑦、図6、図7）

山頂付近では、2020年4月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しており、黒倉山付近では、2024年5月頃から微小な火山性地震が増加しています。

また、8月2日から5日（期間外）にかけて、振幅の小さな火山性微動が観測されました。火山性微動が観測されたのは、2024年4月3日以来です。

・ 地殻変動の状況（図8、図9、図11）

GNSS連続観測では、2024年初め頃から岩手山の山体を挟む一部の基線でわずかな伸びの変化が認められています。また、岩手山周辺のひずみ計では、2024年初め頃から山体膨張を示唆するわずかな変化が認められています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

今回の火山活動解説資料（令和6年8月分）は令和6年9月9日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

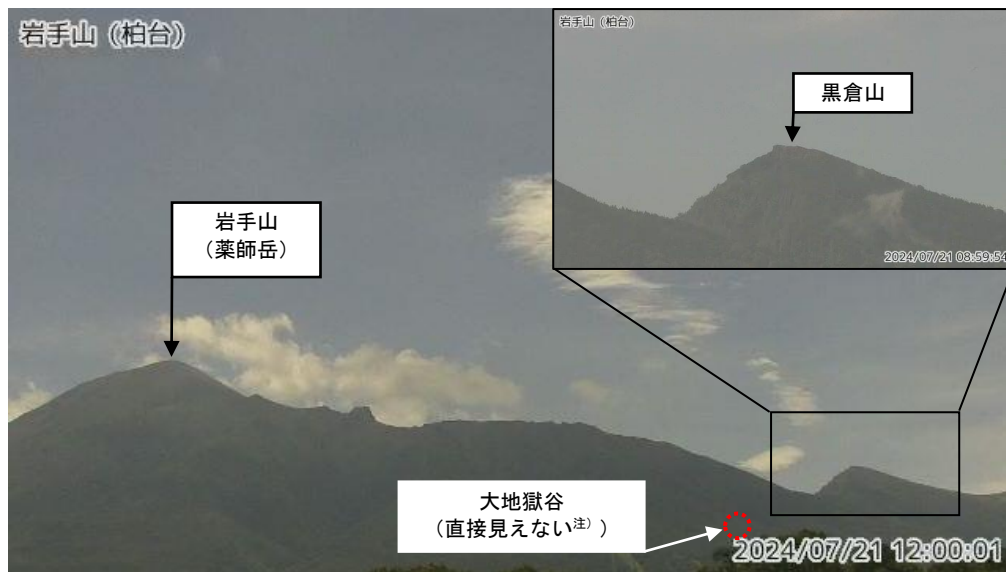


図1 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況（7月21日）

・ 柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約8km）の映像です。

注）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに柏台監視カメラで観測されます。
赤破線が大地獄谷の位置を示します。

黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

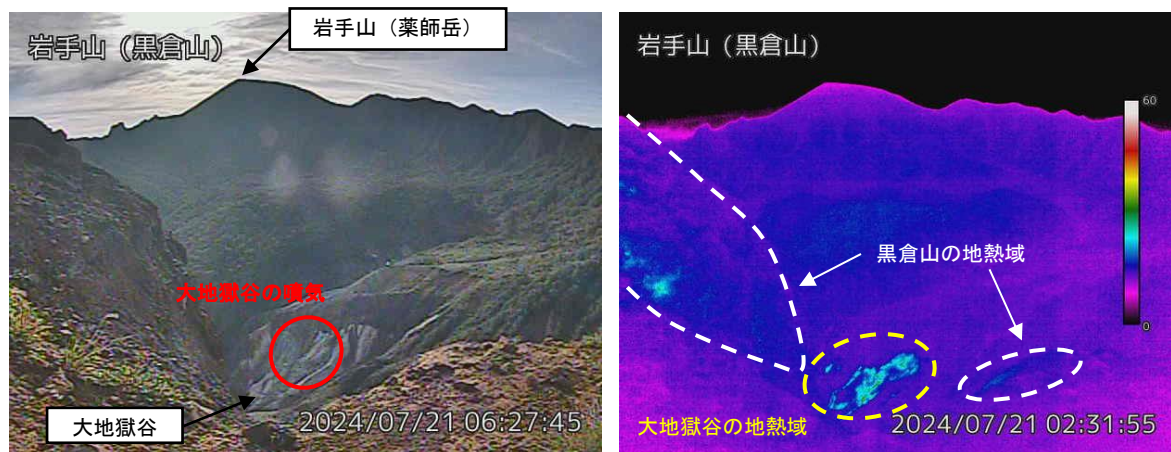


図2 岩手山 黒倉山監視カメラからの状況と地表面温度分布（7月21日）

・ 黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）の映像です。

大地獄谷で弱い噴気が認められました。

大地獄谷及び黒倉山の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

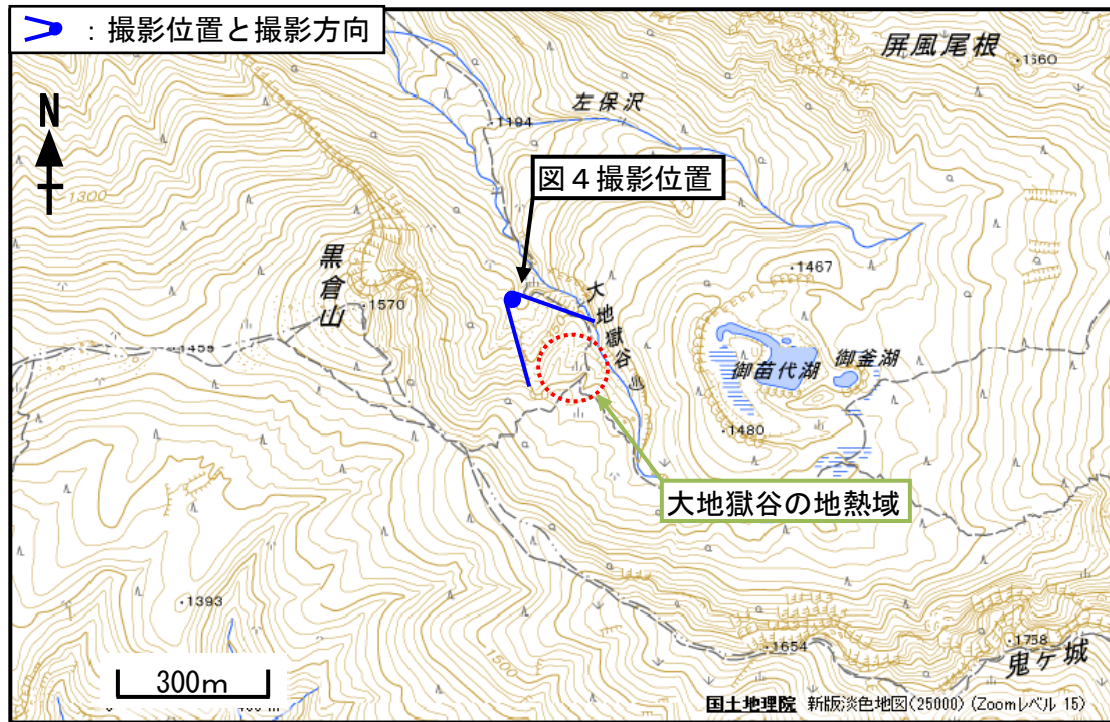


図3 岩手山 大地獄谷の写真と地表面温度分布撮影位置及び撮影方向

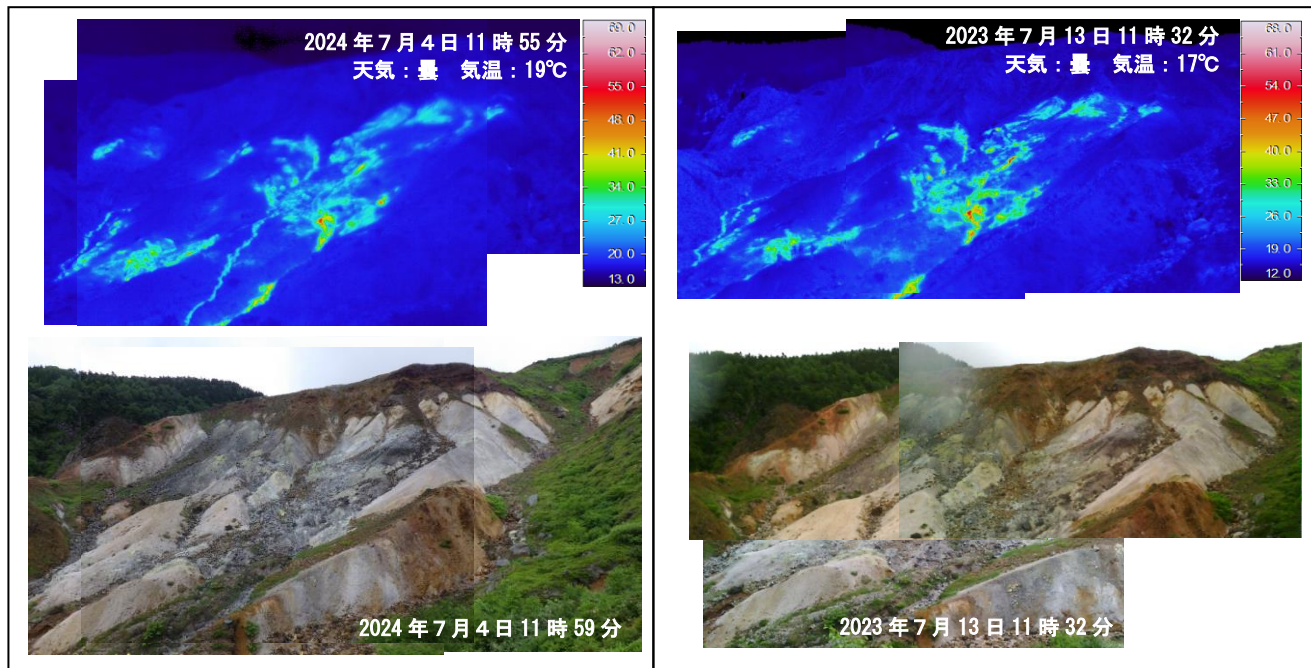


図4 岩手山 北西から撮影した大地獄谷の状況と地表面温度分布

※前回の観測では日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

前回（2023年7月13日）と比較して、噴気及び地熱域の状況に特段の変化はみられません。

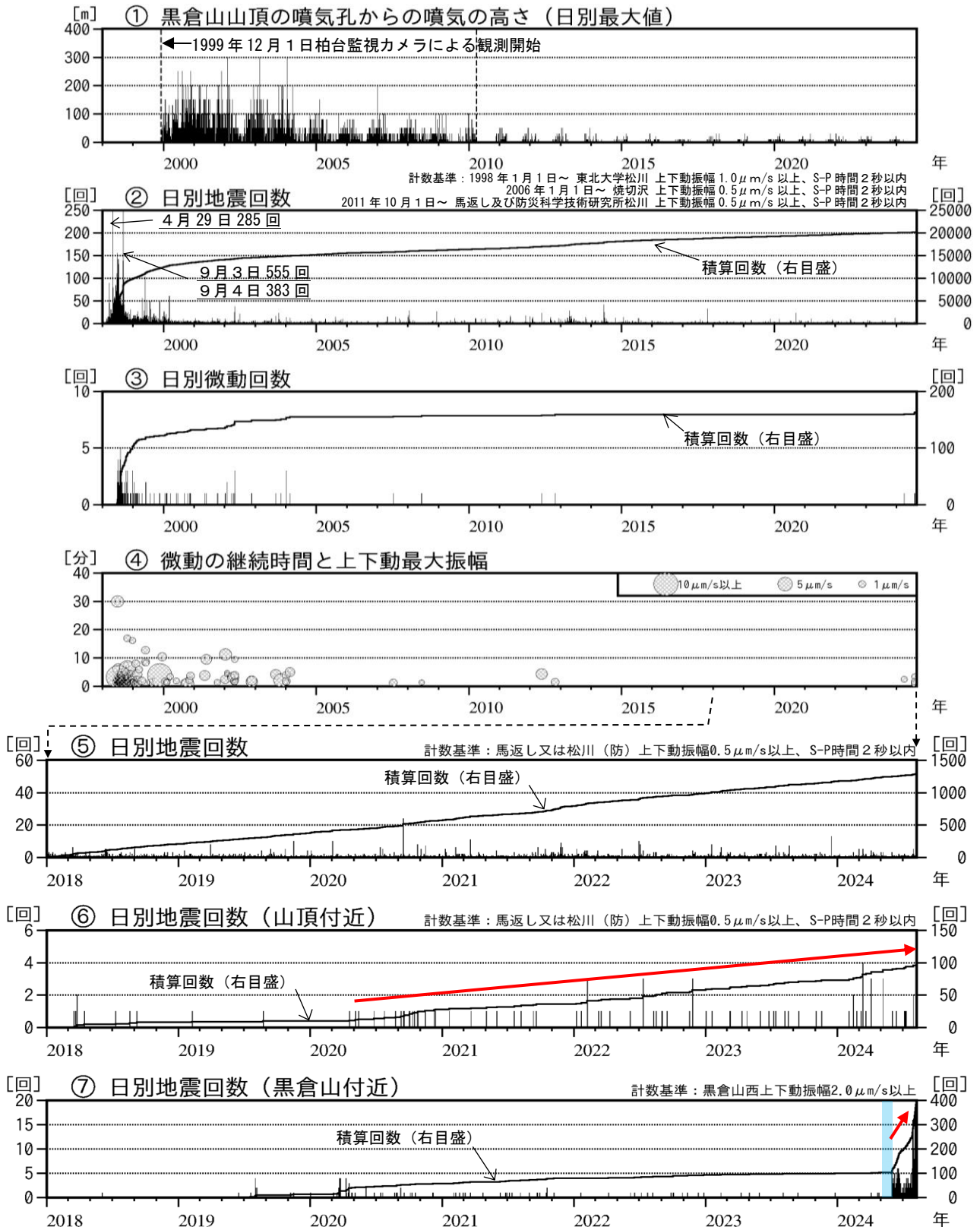


図5 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2024年8月5日）

- ・①2010年3月までは黒倉山のみ観測値を、2010年4月1日以降は岩手山全体の観測値を示しています。
- ・②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。
 （1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）
- ・⑦黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別地震回数であり、②⑤日別地震回数には含まれていません。
- ・⑦青部分は黒倉山西観測点の欠測により、微小地震の検知力が低下している期間を示します。

山頂付近では、2020年4月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移（⑥赤矢印）しており、また黒倉山付近では、2024年5月頃から微小な火山性地震が増加（⑦赤矢印）しています。

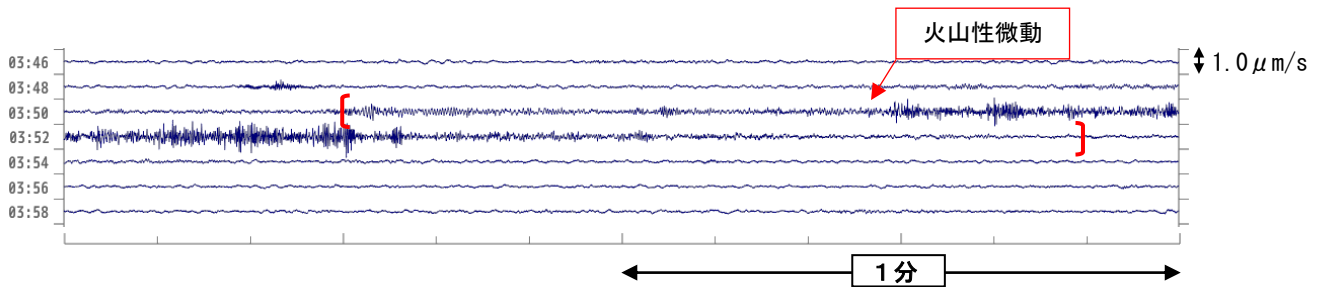


図6 岩手山 松川（防災科学技術研究所）観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況（2024年8月5日03時46分～04時00分）

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。

8月2日から5日（期間外）にかけて、振幅の小さな火山性微動が発生しました。5日の火山性微動の継続時間は3分21秒、松川観測点（防災科学技術研究所、岩手山山頂の西北西約7km）の最大振幅は $0.68 \mu\text{m/s}$ でした。

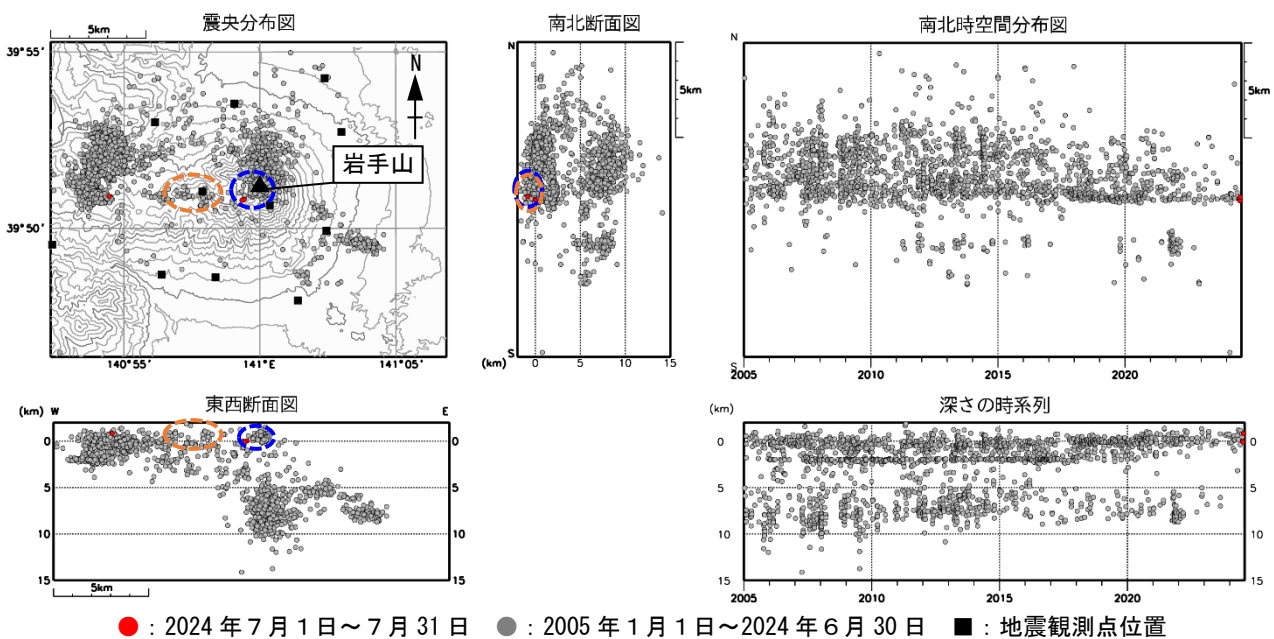


図7 岩手山 地震活動（2005年1月～2024年7月）

- ・ 青破線の領域は「山頂付近」、橙破線の領域は「黒倉山付近」のおおよその領域を示しています。

山頂付近が震源と推定される火山性地震は、今期間5回発生しました。そのうち震源が求まった地震は2回で、震源の位置は岩手山山頂の南西約1.2kmの深さ約0kmと推定されます。

また、震源は求まっておらず、図に表示されていませんが、黒倉山付近で発生していると推定される微小な火山性地震が2024年5月頃から増加しています。

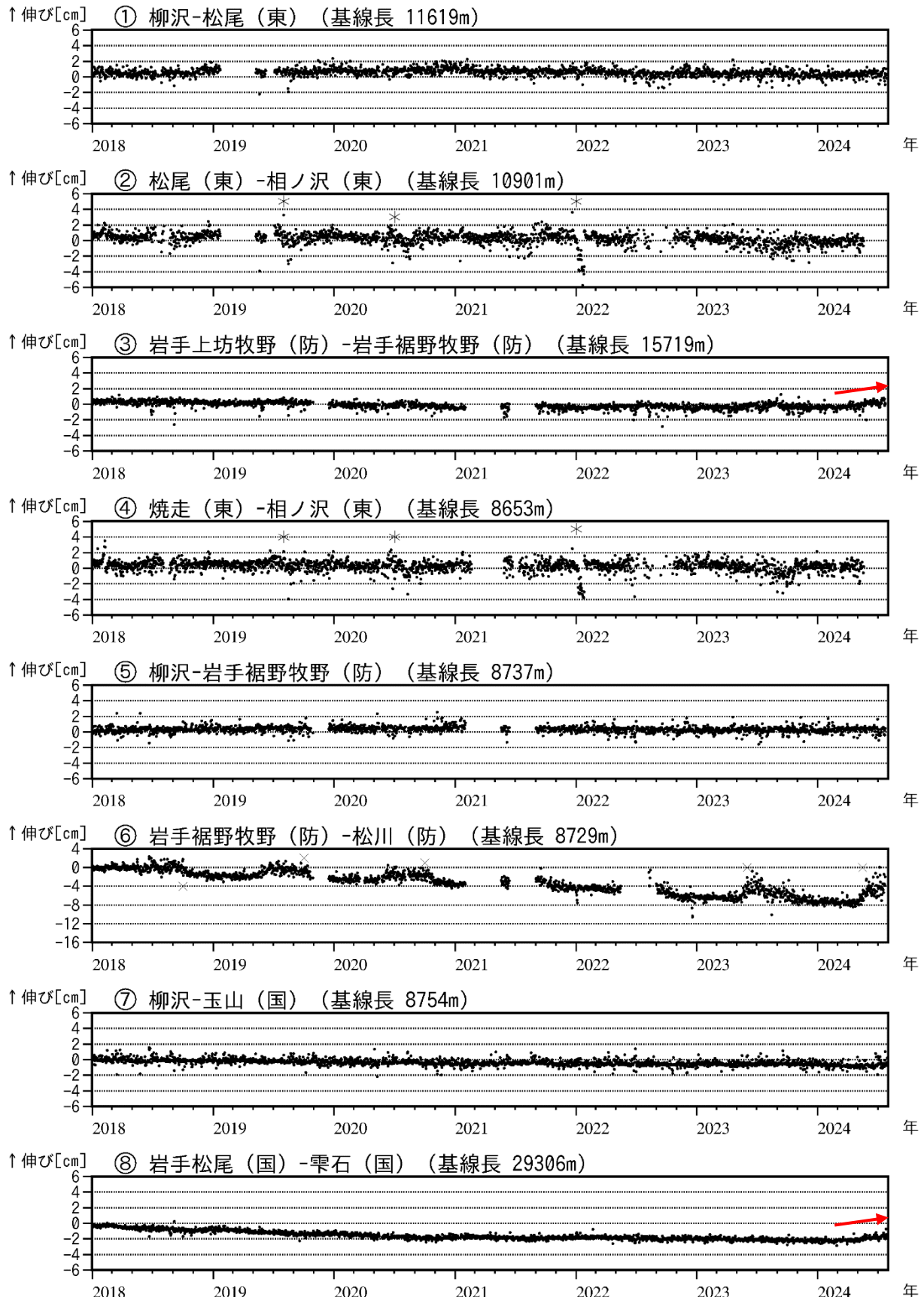


図8 岩手山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2024年7月）

- ・①～⑧は図11のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学、（防）は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ×：松川（防）観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- *：相ノ沢（東）観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

2024年初め頃から岩手山の山体を挟む一部の基線でわずかな伸びの変化（赤矢印）が認められています。

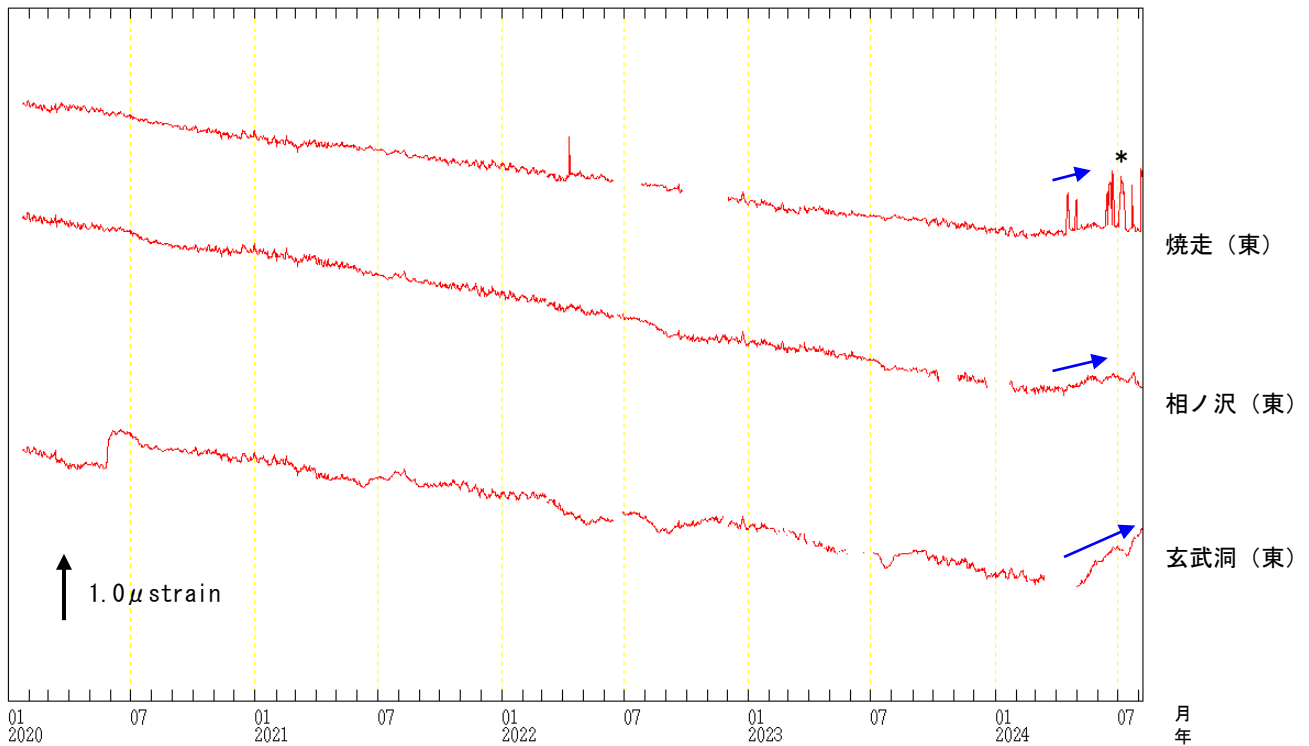


図9 岩手山 ひずみ計（日値）による地殻変動の状況（2020年1月～2024年8月5日）

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・（東）は東北大学の観測点を示します。
- ＊：収録機器の不具合による変動です。

岩手山周辺のひずみ計では、2024年初め頃から山体膨張を示唆するわずかな変化（青矢印）が認められています。

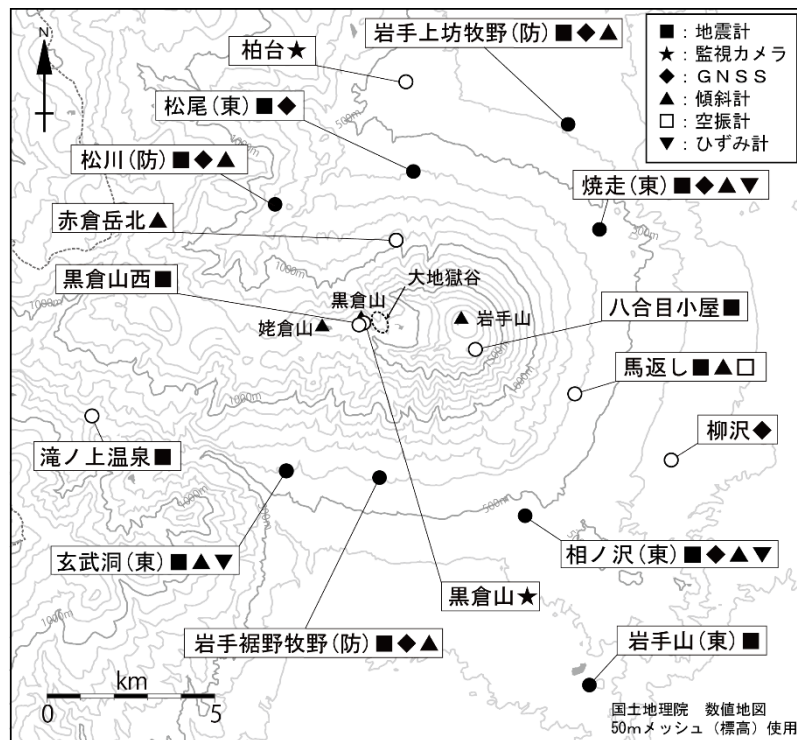


図10 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

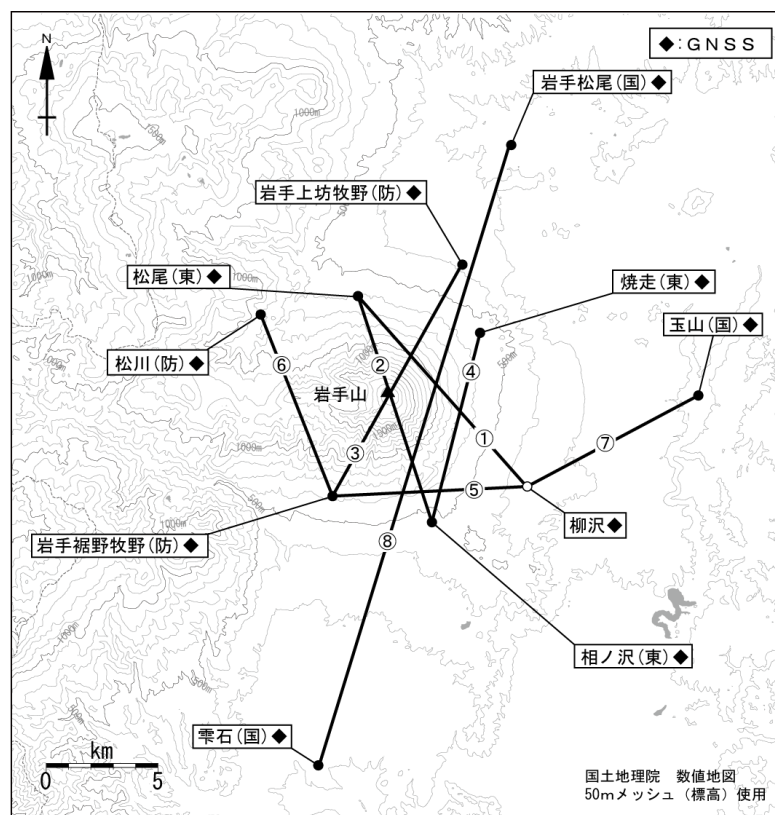


図11 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学
（防）：防災科学技術研究所